

平成27年度 学部教育の成果に関する アンケート調査の結果について

1. 調査の概要

この調査は平成27年度の学部卒業生を対象にして、学部教育の成果について質問したものである。方法は質問紙方式で、平成27年3月11日に卒業対象者243名に質問紙を配布、3月22日までに回収した。回収数は110名、回収率は45.3%である。回収率が平成26年度の40.8%を上回った。

2. 調査結果の概要

調査の詳細な集計結果については別紙に示すが、全体的な傾向や目立った特徴について、前回平成26年度の結果とも比較しながら概要を述べる。

1) 卒業後の進路について

卒業後の進路は大学院生・研究生(23.6%)、農業団体を含む農畜産業(21.8%)と会社員(販売・サービス)(21.8%)が多く、公務員・教員、会社員(研究・製造)がそれに続く。進路先については80.0%が「希望した職種である」と答えており、学生の希望が進路に反映されているといえる。

平成26年度の結果と比較すると、大学院生・研究生が16.3%から23.6%に大きく増加したいっぽうで、農業団体を含む農畜産業26.0%から21.8%に減少した。また、公務員・教員については平成26年度と同様に2年連続で増加していることが目立つ。

2) ユニットでの学習、卒業研究について

各ユニットでの学習、卒業研究への満足度を尋ねた。畜産科学課程のユニット選択制度については75.3%の学生が「今のままでよい」と回答し、平成26年度と同程度の肯定的な評価であった。

51.5%の学生がユニットでの学習に「とても満足している」としており、「どちらかといえば満足」の46.4%と合わせると、ほとんどの学生がユニットでの学習には満足していることがわかる。ただし、平成26年度と比較すると、「と

でも満足している」と回答した学生の割合が、60.0%から 51.5%に低下している。

卒業研究の履修、指導教員からの指導についても、59.1%が「とても満足している」と回答し、「どちらかといえば満足」の 38.2%と合わせると、ほとんどの学生がユニットでの学習には満足していることがわかる。学生はユニットの教育制度や教育内容、卒業研究の指導等に満足して卒業していつてくれていると考えることができる。

3) 帯広畜産大学でのさまざまな学習とその成果について

大学での学習を「ユニットの専門科目の学習」「理系の基盤・共通科目の学習」「人文社会体育系の学習」「外国語・コンピュータ科目の学習」「サークル活動や友人関係など学内の活動」「アルバイトや社会的活動など学外の活動」に分けて、それぞれへの取組み、満足度、卒後の進路に役立つかを尋ねた。

取組みの積極度、満足度、卒後の進路への役立ちのどの側面でも、サークル活動や友人関係などの活動への評価が高く、授業科目における学習よりも高い値を示している。学生は大学の授業や実習などよりもサークル活動、友人関係などのほうに積極的に取組み、満足し、またそれらが卒後の進路においても役立つと考えていることがわかる。

授業科目の中ではユニットの専門科目への評価が高く、理系の基礎・共通科目が続く。これらと比較すると、人文社会体育系科目と外国語・コンピュータ科目について評価が低く、人文社会体育系科目に対しては比較的積極的に取組み一定の満足を得ているものの、卒後に役には立たないと評価し、外国語・コンピュータ科目に「卒後に役に立つものと思いつつも、消極に取組みあまり満足を得られてない」という評価していることが伺える。

4) 帯広畜産大学の教育全体について

教育目標の達成度については「おおむね達成している」が 67.3%あるのに対し、「あまり達成していない」「まったく達成していない」という回答が 27.2%であったことから、本学の教育目標がある程度達成されていると考える学生の方が多いことがわかる。しかしながら、平成 26 年度は「おおむね達成している」が 71.2%、「あまり達成していない」「まったく達成していない」が 18.3%であったことと比較すると、本学の教育目標がある程度達成されていると考える学生

の方が減少している。

教育システム全体についての評価では、H26年度と同様に「改善すべき部分が少しある」「改善する部分の方が多い」という回答が4割を超えている。自由記述回答をみると、語学の履修についての不満が圧倒的に多いことがわかる。この問題については平成26年度の入学者からは大幅な改善をしたものだが、卒業生に大きな不満を残したことがわかる。

帯広畜産大学に入学し、そこで学んだことへの満足度では、「とても満足している」(47.3%)、「どちらかといえば満足している」(47.3%)で9割を超えており、卒業生は本学に入学して学んだことには高く満足してくれていることがわかる。しかし、H26年度の「とても満足している」(59.6%)、「どちらかといえば満足している」(33.7%)と比較すると、満足度という点では減少しているといえる。自由回答をみると、例年は、専門的な技術や知識以上に、先輩や友達、仲間との関係、サークルやアルバイトでの社会的スキルなどを手にいれたという記述が多いが、今年度については、専門的な技術や知識以上に関する記述が増加傾向にある。加えて、論理的な思考力や文章やプレゼンテーションなどの表現力といった汎用的なリテラシーなどの指摘が増えた。

帯広畜産大学の教育その他の活動へのご意見ご希望欄にも平成26年度と同様に多くの記述がみられた。具体的で現実的な苦情や提案も多く見られるので、今後の教育改革に反映させることが求められる。

以上